

## 仙台文学館 設計趣旨

### ■基本コンセプト

#### 1 ゲートの役割ー周辺環境から

当敷地は仙台駅からわずか5kmの距離にあり、まわりを市街地に囲まれながら、隣接する森林公園とともに市内の貴重な緑の一画を形成しています。そして開館後は敷地全体が奥に連なる森林公園の入り口のひとつとなります。以上のことからここでは建物に緑の森と庭園へのゲートとして、また、自然と都市との境界に立って都市化の波から自然をまもる防波堤としての2つの意味を与えています。そして敷地入り口から建物(ゲート)の下を森林公園へと一直線に抜ける散策ブリッジは、街と自然を結ぶ象徴的なブリッジでもあります。

#### 2 ブリッジー大地とのかかわり方

2つの尾根にはさまれた谷間であることがこの敷地の大きな特徴です。このような場所で自然との調和を図るため我々は建物全体を谷をめぐる散策路の中のブリッジとしてとらえました。人々はそれを渡りながら色づく樹々や池に映える山々を楽しみ、尾根を歩きながらそのブリッジを眺めることができます。同時にブリッジとして建物を浮かすことで、池を中心として谷間に広がる庭園をできるだけそこなわないで済み、文学館を訪れる人だけでなく街を歩く人々も誘いこむことを期待しています。

#### 3 白壁と石積みー歴史と時間の流れの中で

白壁と城などの石垣は仙台の人々に親しまれてきた美しい姿の一つです。コンクリート打放しに白色の撥水剤を塗った外壁はその白壁を象徴し、自然との対比を表現しようとしたものです。そして石積みの擁壁やコンクリートを現代の石垣に見立てて外観と外構を構成しています。また内部では3階の展示空間と収蔵庫・書庫を、閉鎖性の高い、安全で強固な白塗の蔵としてとらえています。



●正面外観



●収蔵庫

### ■全体構成、平面、断面計画

建物は谷の東西に渡し架けられ、一般来館者は調整池を兼ねた修景池をはさんで谷の東に誘導され、職員および資料の出入りは谷の西側で行われます。

建物の主要部分を二層構成とし、2階を無料の交流ゾーンと調査研究機能、3階を展示室と保存機能で構成しています。1階では散策ブリッジに面してガラスのエントランスロビーが設けられ、2階のメインエントランスとは吹き抜けで連続しています。

基本的に1、2階の無料ゾーンは内部よりむしろ外部空間の連続として意識しています。そのため、陽差しや青空を感じられるようにトップライトで覆い、木レンガの床や鍍塗の壁といった外部的な素材を中心として構成しています。

建物中央部を貫く円筒は建物の下の空間を明るくし、展示室に向かう中空の渡り廊下や交流ゾーンと眼下の池を立体的に結びつけようとするものです。そして1階の軒天井に貼られたステンレスの波板は水面の光を映しこんで光の変化を建物の下に伝えます。

(株)ネオタイト建築計画 後藤泰夫 樋口 誠



●エントランスホール



●1階/2階エントランス

- 建築設計/ (株)ネオタイト建築計画
- 設備設計/ (株)総合設備計画東北事務所
- 展示設計/ (株)トータルメディア開発研究所
- 建築工事/ 戸田建設・仙建工業JV
- 強電設備工事/ 川北電気工業(株)東北支社
- 弱電設備工事/ 産電工業(株)
- 空調設備工事/ 銅谷設備・伊藤工業所JV
- 給排水設備工事/ (株)アオイ技研
- エレベーター設備工事/ ダイコー(株)仙台営業所
- 敷地造成工事/ 高誠建設興業(株)
- 修景工事/ 藤間建設(株)
- 植栽工事/ 宮十造園土木(株)
- 移植工事/ (株)瑞鳳園・(株)東北緑進総合